Poster Session

Fri. Nov 20, 2026 1:00 PM - 2:00 PM JST | Fri. Nov 20, 2026 4:00 AM - 5:00 AM UTC | ポスター5

Poster Session 9 Diverticular Disease 1

座長：吉満 政義（広島市立広島市民病院外科）

[P9-1] A Single-Center Study of Treatment Selection in Complicated Colonic Diverticulitis with Perforation or Penetration

*Mitsunari Yamada[1] (1. Osaka Saiseikai Tondabayashi Hospital)

【目的】穿孔・穿通を伴う合併症性結腸憩室炎症例を後方視的に検討し、画像所見および腹膜炎所見に着目して、治療選択に関連する特徴を検討する。
【方法】2020年9月から2025年12月までに病名検索で抽出した結腸憩室炎381例を後方視的に検討した。このうちカルテおよび画像所見の再評価で穿孔・穿通を認めた24例を解析対象とした。侵襲的介入は経皮ドレナージまたは緊急手術と定義し、主解析は保存的加療群と侵襲的介入群で比較した。副次解析として保存的加療群、経皮ドレナージ群、緊急手術群の3群で検討した。画像所見としてガス位置、free fluid、膿瘍形成の有無・最大径、腹膜炎所見との関連を評価した。
【結果】対象24例の年齢中央値は54歳、男性18例、女性6例であった。病変部位は左側18例、右側6例であった。保存的加療群は20例、侵襲的介入群は4例であった。副次解析では保存的加療群20例、経皮ドレナージ群1例、緊急手術群3例であった。院内死亡は認めなかった。侵襲的介入群ではfree fluid、瘻孔、腹膜炎所見などの進展所見を伴う症例を認め、画像所見および臨床所見が治療選択に関連する可能性が示唆された。
【結論】穿孔・穿通を伴う合併症性結腸憩室炎では、画像所見および腹膜炎所見を踏まえた評価が、保存的加療群と侵襲的介入群の層別化に有用である可能性が示唆された。

©一般社団法人 日本大腸肛門病学会